



群馬県ユネスコ連絡協議会

<http://gunma-unesco.com>

会長 樋口 克己

事務所 群馬県教育委員会生涯学習課

## つなげよう平和の心 広げようユネスコの輪



### 広げよう 平和の心 持続可能な社会の実現を 目指す民間ユネスコ活動

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長 樋口 克己

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は各地で台風による災害を被りました。群馬県内でも尊い人命が奪われました。土砂災害や家屋への浸水被害もあったようです。被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年10月24日(土)に関東ブロック・ユネスコ活動研究会in群馬(関ブロ群馬大会)が高崎市で開催されます。表題の「広げよう 平和の心」―持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動―は関ブロ群馬大会のテーマです。

群馬県ユネスコ連絡協議会は既に大会運営を担う実行委員会を立ち上げ、オール群馬の体制で大会の成功を目指して取り組んでおります。

ところで、国際平和と人類の共通の福祉をという目的を促進するために国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が創設されてから70年余りが経過します。

しかしながら、今日も地球上では紛争が絶えず、テロも続発しており、世界平和が実現しているとは言えません。世界平和を希求するユネスコの理念の崇高さと使命の大切さをあらためて強く感じます。併せて、私たちには将来に向けて持続可能な社会を実現していく責務があると考えます。そのための民間ユネスコ活動が果たす役割は決して小さいものではないと思います。

私たちは県ユ連の様々な活動を通して世界平和の実現と持続可能な社会の構築を目指していきたく思います。その取り組みの一つが関ブロ群馬大会での研究協議であり、協議を深める中で、しっかりとした成果をあげ、課題を明確にし、今後の民間ユネスコ活動に活かしてまいりたいと存じます。なお、関ブロ群馬大会の詳細については、後日ご案内します。



### 新年のごあいさつ

群馬県教育委員会

教育長 笠原 寛

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様におかれましては、晴れやかな新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

さて、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピックというと、勝敗やメダル数に注目が集まりがちですが、改めてオリンピック憲章を見直しますと、冒頭の根本原則に「平和な社会を推進する」という一文がありました。これは、ユネスコ憲章前文の「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と相通ずるものがあります。

世界最高レベルのスポーツの祭典も、ユネスコが取り組んでいる「世界寺子屋運動」や「国際理解バス」も、目指すところは同じ「世界平和」であると考えられます。しかし、スポーツを通して世界平和を目指すはずのオリンピックも、ボイコット問題など、時代時代の諸情勢に影響されることがありました。そのような中、貴協議会を始めとする民間ユネスコ団体が、ユネスコ憲章の精神に基づき、国際的な教育支援活動のほかにも、海外青年との交流など様々な活動を一貫して続けておられることは、県といたしましても、誠に心強く感じております。

結びに、皆様方の御健勝・御活躍、また群馬県ユネスコ連絡協議会の御発展を祈念申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 第75回日本ユネスコ運動全国大会に参加して

前橋ユネスコ協会 須藤 英雄

今年の日本ユネスコ運動全国大会は東京で行われ、前橋からは4名が参加した。

会場は豊島区立目白小学校で、JR山手線・目白駅から徒歩5分の所にあり、目の前が学習院大学、付近には私立の中学校などがある文教地区の中にあった。小学校の校舎は新しく建て替えられたようで、その新しい体育館で全国大会が行われた。

9月7日(土)第一日目は、「開会式」に続いて、「世界寺子屋運動30周年記念動画上映」および「ディスカッション」で寺子屋運動の歴史と成果を確認した後、基調講演「SDGs実現に向けての識字・NFEの役割」と題して、成人識字教育とノンフォーマル教育が持続可能な開発目標達成に果たす貢献について、すべての成人に識字や計算を基礎とした教育が必要であるとウイリケ・ハネマン博士(ドイツ出身)から講演があった。

休憩の後、パネルディスカッション「世界寺子屋運動とSDGs」と題して寺子屋で学習したアフガニスタン、ネパール、カンボジアの3名と杉並ユネスコ協会青年部の高校2年生のコメンテーターの声を聴いた。その後、総括セッションとして「これからの世界寺子屋運動の役割と展望」を5人のコメンテーターとファシリテーターで「ESD⇒SDGs」の意義や、一人ひとりを認めて生かし取り残さない教育などの話があった。

第一日目の夜、懇親会が池袋のホテルメトロポリ

タンで行われた。

9月8日(日)第二日目は、パネルディスカッション「学びを通して共生社会を作る」と題して、日本の中にある帰国子女や貧困などについて3名のパネリストとモデレータで意見を交わした。

その後、基調講演「2019年寅さんの学校論」と題して参加者が心待ちにしていた山田洋二(映画監督)さんが、寅さんの人生論、学校論、学校を取り巻く社会環境、幸福論などについて語った。

最後に閉会式で、次回2020年開催地の山口・宇部ユネスコ協会のあいさつで終了した。

東京での会議では若い人たちが、運営も含めて年々増えていることが羨ましい限りである。

今年の全国大会は、東京での開催ということもあり、前橋ユネスコ協会からは4名の参加であったが、大会に先立って、阿久澤会長のゆかりのあるJR高田馬場駅近くの某カレー専門レストランに前橋の参加者全員で寄り、昼食でお腹を満たしてから大会に臨んだ。過去何回かお邪魔している店だが、相変わらずの美味しいカレーをいただいた。

大会は二日間ということから今回は池袋で宿泊したこともあって、大会の内容もさることながら、久しぶり東京を満喫することができた。



## 「関東ブロック・ユネスコ活動研究会in埼玉」参加報告

県ユネスコ事務局次長 清水 哲夫

令和元年10月5日、埼玉県蓮田市の総合文化会館(ハストピア)において、「Peace for tomorrow(ひろげよう平和の心)～平和な社会を目指し、共に学び・共に語ろう～」をテーマに関東ブロック・ユネスコ活動研究会が開催されました。1都5県から参加会員数255名、うち群馬県からは10ユ協54名が参加しました。

オープニングイベントでは、ユネスコスクールでもある蓮田市立蓮田中学校の吹奏楽部による心のこもった演奏が披露され、大会を盛り上げました。

そして、全体会でのメイン行事でもあるパネルディスカッション「地球環境における環境変化～南極からの警鐘～」では、コーディネーターとして国立極地研究所名誉教授の福地光雄先生(第33回日本南極越冬隊長)、パネラーには、オーストラリア南極局のグラハム・ホージー博士と国立極地研究所副所長の伊村智教授のお二人が登壇し、ホージー博士による南極を取り巻く海洋の温暖化による海水温の上昇による海洋生態系への影響、特に南極を取り巻く氷海の現象が寒さを好むオキアミの生息を危うくし、南極海の生態系を変化させている現実が紹介されました。また、伊村教授からは、南極の陸地でのオゾンホール出現による植物たちへの影響を、特にその頂点にいるコケや地衣類に出現しているオゾンホールから自らを変化させている(黒色化)状況に着目して説明がありました。

こういったざりざりの環境に成立した動植物の南極での生態系を研究されているお二人の科学者の発表から、その環境と生態系の変化が遠く離れた私た

ちにも警鐘を鳴らしている現実を知り、私たちはどのように関わっていくべきかを考えさせられました。

また、その後、4つに分かれての分科会(「世界寺子屋運動と地域ユ協の取組」「ユネスコスクールと地域ユ協の連携」「ユネスコ活動の活性化と会員増に向けて～青年層とともに考える～」「世界遺産・未来遺産～地域文化遺産の継承・保存と地域ユ協の取組・課題～」)が持たれ、発表と質疑応答がなされました。群馬からは2名の方の発表がありました。

第1分科会「世界寺子屋運動と地域ユ協の取組」では、沼田ユ協事務局長の犬島俊夫さんによる『沼田ユネスコ協会の世界寺子屋運動と平和の鐘運動』についての発表があり、第2分科会「ユネスコスクールと地域ユ協の連携」では、安中碓氷ユ協・安中市教育委員会の田村利幸さんによる『地域ユネスコ協会とユネスコスクールとの連携』についての発表がありました。

そして、全体会閉会式の最後には、次年度関ブロ開催県として、群馬県のユネスコ会員全員がステージとその下に陣取り、ステージ上で大会のテーマと日時等を記した横断幕を提示し、樋口克己会長の関ブロ群馬大会開催についての紹介と共に、岸正博実行委員長の「頑張ろう!頑張ろう!頑張ろう!」のシュプレヒコールを群馬の会員だけでなく会場にいらした会員全員で行い、我が群馬県開催に向けての決意を新たにしました。



## 研修視察

安中碓氷ユネスコ協会 会長 矢野 薫

安中碓氷ユネスコ協会では、群馬県ユネスコ連絡協議会研修視察IN安中「アプトの道ウォーキング」を令和元年6月2日、安中市松井田町坂本の峠の湯(碓氷峠の森公園交流館)を主会場として開催いたしました。

この研修視察は、碓氷峠鉄道施設の歴史的価値を伝え、郷土の貴重な遺産の保護・保全のあり方を探り、各ユ協の活動の更なる活性化を図るとともに、県内会員相互の親睦を深めることを目的とし、碓氷峠鉄道施設であるアプトの道で県内ユネスコ協会員57名、一般参加者203名、計260名の参加で開催いたしました。

当日は、安中市長様をはじめ多くのご来賓をお迎えし、特別ゲストとして映画「紅い襷」の主人公、水島優さんを迎え、安中総合学園高校生による和太鼓演奏に続き、特定非営利活動法人碓氷峠歴史文化遺産研究会代表の萩原豊彦氏を講師に、峠の湯から旧熊ノ平駅までのアプトの道を歩き、鉄道施設を視察しながら、歴史・文化的な価値や実際にどのように使用されていたか等について研修しました。

途中、三味線(上原梅弦氏)とカリンバ演奏(ア

キラック氏)を聴いていただくとともに、めがね橋上で参加者によるシャボン玉大会を実施、旧熊ノ平駅では、群馬サファリパークの入場券があたる抽選会で研修を盛り上げ多くの方に楽しんでいただきました。

事業の目的である、碓氷峠鉄道施設の歴史的価値を伝え、郷土の貴重な遺産の保護・保全のあり方を探り、各ユ協の活動の更なる活性化を図るとともに、県内会員相互の親睦を深めることができました。また、研修視察終了後、峠の湯(温泉とレストラン)で疲れた体を癒やしていただき、多くの参加者に有意義な研修の場を提供できたと考えております。



## 県ユ連運営研修会兼事務局員研修会

太田ユネスコ協会 副会長 栗田 政子

太田ユネスコ協会では令和元年9月21日(土)、同市の「史跡金山城跡ガイダンス施設+太田市金山地域交流センター」を会場として、運営研修会兼事務局員研修会を開催致しました。

30周年を迎えた世界寺子屋運動とそれを支える書きそんじハガキ・キャンペーンで、群馬県は全国第3位の実績を挙げてはいますが、更なる活動の深化のための協議の場とすることを目的としました。50年にも及ぶ県内の多くのユ協の活動の実情と成果を挙げてもらうことで、今後の活動の指針となることも願って実施した訳です。

会場はオリンピックの新国立競技場にも携わった隈研吾氏の設計で、外壁を太田市のシンボルでもある金山城の石垣をイメージした施設です。併せて地域資産である金山への理解と関心を深めていただくことをも目的としました。

開会行事は樋口克己県ユ連会長、中村利光太田ユ協会長の挨拶、続いて来賓の太田市教育委員会澁沢啓史教育長様(高橋徹教育部長様代読)の祝辞で始まりました。

県内全ユ協の活動状況のアンケート結果の発表後、先進活動事例発表を高崎ユ協と前橋ユ協に行っていました。その後、日ユ協連盟事業部部長

の関口広隆様から「世界寺子屋運動30周年と今後の展望」と題して講話をいただきました。

昼食後は地元ボランティアガイドの案内の下、日本100名城の一つである、金山城跡を見学しました。不順な天候が続く中、幸いにも天気にも恵まれ、金山の自然地形を利用した雄大な山城の様子は、参加者の皆様に大いに楽しんでいただけたことと思いません。

県内各ユ協の世界寺子屋運動の状況を知り、先進的な高崎、前橋の取り組みを学び、更に日ユ協事業部長の講話を通して世界寺子屋運動の取り組みを理解し、今後の活動に活かしていける示唆があったと思います。

この研修により活動の充実拡大が図られ、会員の減少、高齢化という、どのユ協にも当てはまる問題の解決策の一助にもなればと願っております。



## 「第5回 群馬県ユネスコスクール研修会」 報告

ユネスコスクール委員会委員長 岸 正博

2019年7月24日(水) 13:20~16:40、藤岡市総合学習センターにて開催。参加者は、ユネスコ協会会員、県内小中高の教員、教育委員会関係職員等、103名。



今回の講師は、福岡県大牟田市教育委員会教育委員長安田昌則氏。演題は、「ユネスコスクールのまちのおおむた～ESDによる持続可能なまちづくり～」である。2012年1月、市立の全小・中・特別支援学校、28校がユネスコスクールに一斉に加盟し、学校や地域の実態に合わせて、持続可能な開発のための教育

(ESD)を進めている。市役所においては、市長を本部長とする「大牟田市ESD推進本部」を設け、全庁的にESDに取り組んでいる。

2015年9月、国連において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択に伴い、大牟田市では、「大牟田版SDGs」を作成し、我が国が抱えている普遍的な課題や大牟田市独自の課題に対して、ESDの実践をもとに、「SDGsおおむたマップ」など、主体的な学びを生み出す授業実践が行われているという。

Ⅱ部のユネスコスクール活動報告では、藤岡市立美九里西小学校の児童3名と春山秀幸校長が実践報告として、「『高山社会学』を通じたユネスコスクールの活動」の取組を報告した。地域を理解し、愛し、さらにそれを未来につなげようという気持ちを持った児童が増えているという。

2校目の発表は、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校教諭、長井大輔氏が「生徒の未来と世界をつくるSDGs」と題し、中等教育学校での教育内容を発表した。ユネスコスクールチャレンジ期間中ではあるが、すでにアメリカミズリー州大学と連携し、SDGsに基づく社会体験と課題研究を進めている。持続可能な社会に向けたキャリア・グローバル教育の実践はこれからの社会・日本を支える人材を輩出するに違いないことを実感させられた。

## 海外青年交歓研修会を終えて - 9年ぶりの担当に -

前橋ユネスコ協会 副会長 矢島 俊夫

前橋ユ協は今年度、海外青年交歓研修会を担当しました。平成21年度海外青年交歓研修会の主管を行って以来9年ぶりの担当となりました。

久しぶりの交歓研修会の担当と言う事もあり、早い段階から役員会で議題にしましたが、中身が白紙状態ということもあり一向に具体的ににならないことや、目先の行事(国際理解バス、絵画展、ユネスコバザー等)の準備もあり、小委員会を作り研修会の企画を提案することにしました。小委員会で検討する中で一番身近な食と文化を通して外国青年との交歓会を実施する方向性が出てきました。

そこで、外国料理を一緒に作る協力者を各ユ協にお願いしましたところ、快く承諾いただきました。

お手伝いいただいた各ユ協役員の方々からは、料理を外国青年と一緒に作りながら交流も図れ、楽しかったとお聞きし安心しました。

### 食と日本文化での交流

当日は開会式の後、外国料理を食べながらの交流が始まり、料理を担当した各外国青年からメニューの紹介や自己紹介をしながら和やかな雰囲気での交流が始まりました。

中国留学生の汪さんは、「水餃子は皮からつくらないと本来のもっちりした味にならない」と話して

くれ、皆さん納得していました。協力者からは「楽しく水餃子作りが出来た。家でも作ってみたい」と話してくれました。インドネシアからの留学生リファインさんはミーゴレン(日本の焼きそば)を作ってくれ、皆さんからおいしいと言われていました。

日本文化の紹介では、子ども達の三味線の演奏を楽しみました。低学年のグループから高校生までのグループが出演し、たくさんの声援がありました。

続いて、お茶席と絵手紙。お茶席は和室でなく椅子に腰かけ、運び手とお客が挨拶を交わし始めます。絵手紙は初体験の方も多く、ハガキに絵を描き、言葉をいれて素晴らしい作品を作っていました。

参加していただいた各ユ協の皆さんのご協力で楽しく和やかに研修会を終えることができました。



## 各ユネスコ協会だより

### 桐生ユネスコ協会

世界の宝物展

会長 北川 紘一郎

1996(平8)年に始まった桐生ユ協の「世界の宝物展」は、日本で最初の世界遺産の登録が始まった1993(平5)年の法隆寺や姫路城などとほぼ同時期にスタートした。

現在、桐生ユネスコ協会が毎年継続して開催している「ユネスコ世界遺産写真



パネル展(世界編、日本編)は「桐生市文化祭」(桐生市文化協会主催)の一部門である。今年は5月18日、19日に開催した。毎年、日ユ協が所蔵している「世界遺産写真パネル」をお借りして開催している。

23年間続いてきたこの事業は、桐生ユネスコ協会の目玉事業として定着し、一昨年までは、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の写真パネルを県からお借りして同時展示し、富岡製糸場伝道師協会の会員による解説も行われていた。しかし、残念なことに伝道師協会の事情により今は富岡の解説と展示は行われていない。毎年多くの市民や関係者の来場を得て盛況に開催している。

本年は、開催日の前の飾り付け準備日に「2019年度桐生ユネスコ総会」を開催した。普段、行事に出られない方々が応援できるように考えたが、会員の反応は無かった。

懇親会や行事の案内など呼びかけるが平均75歳以上の会員の方々にはなかなか足を運んで頂けない。若者に声をかけても高い理念を持つ活動の団体には会費を払ってまでは余り興味を示してくれない。苦渋の運営を強いられているのが現状である。2020年は関ブロも控えているので、会員増強に努めたい。

### 太田ユネスコ協会

多くの関係者のご支援に支えられながら

会長 中村 利光

太田ユネスコ協会は、小学生対象の国際理解バス、中学生対象のイングリッシュスクール、高校生対象の弁論大会、園児や小・中学生対象の作品展などを行っています。また、小・中学校への出前授業、広報紙の発行、世界寺子屋運動への取組み、関係諸団体事業への連携・協力など、多様な事業を推進しています。

さらに、今年度は本協会がホストとして、県ユ連主催の運営研修会兼事務局員研修会を担当したことで、例年より一層充実した1年となりました。各事業を展開する中で活動の成果を得るとともに、長期に継続する上での労力的な課題も感じてきています。

諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展では、市内の学校や園から930点ほどの絵や書が出品され、全てを学習文化センターに展示し、賞授与を行っています。作品の募集案内、作品受入れ、審査、展示準備、展示作業、開催日の受付、取外し作業、賞状や賞品の準備、返却への袋詰め、作品返却など、一連の作業へ対応するため、多くの人手が必要になっています。

役員や理事だけでは作業には限界があり、審査日には、審査員として教育委員会・国語主任会・凶工美術主任会・太田美術協会などにお世話になっています。また、入賞者名簿作成や賞札貼付に、学校から先生の派遣をいただき、大変助けられています。

また、作品を展示するための事前準備、展示ボード設置や作品掲示などの展示作業、ボード収納や作品取外しなどの3日間は、市内全44校からPTA2名ずつの支援をいただき、女性は低所の作品掲示、男性は高所の作品掲示とスポットライト設置など、高齢の多い役員にとって、大変助けられています。

国内の多くのユネスコ協会が、会員減少と高齢化の課題を抱えています。本協会は、今後も多くの団体の温かいご理解とご支援をいただきながら、課題を克服し、園児から高校生に向けた国際理解支援や健全育成を始め、保護者や市民へのユネスコ精神の普及などに、継続的に努めていきたいと思ひます。



### 前橋ユネスコ協会

「私の住みたい夢のまち」絵画展

理事 女屋 光明

令和元年9月28日～10月8日、「私の住みたい夢のまち」絵画展が前橋市中央公民館「元気21」で開催されました。前橋市内の小中学校の児童・生徒を対象に毎年行われています。今年も多くの力強い作品を応募いただきました。

9回目を迎える今年は、1,232作品(小学生1,047作品、中学生185作品)の応募があり、絵画展には、特別賞、金賞をはじめ100作品が展示されました。

初日の9月28日には表彰式が行われました。

特別賞には、①前橋ユネスコ協会会長賞、②前橋西ローターリークラブ会長賞、③前橋東ローターリークラブ会長賞、④群馬日野自動車賞、⑤前橋商工会議所会頭賞、⑥国際ソロプチミスト前橋賞、⑦前橋市教育長賞の7つがあり、それぞれの代表者から、賞状及び賞品が手渡されました。また、金賞には13作品が選ばれ、前橋ユネスコ協会会長より賞状と賞品が手渡されました。

表彰式終了後は、お父さん・お母さん、おじいちゃん・おばあちゃんと記念写真を撮る様子が見られました。

今年の傾向としては、全体的にレベルが高く、審査は難航しました。絵の一枚一枚が応募いただいた児童・生徒の夢の凝縮ともいえるもので、それが個性となって、見るものに語り掛けてくるのです。絵には、夢の中の感触や空気まで映り込んでいるようです。

最終審査の会場に広げられた数百点の作品は壮観でした。1年に1度の、この一瞬の感動があるからこそ、わずか100点を選ぶという苦悩に耐えられるのです。

審査員が楽しみながらも汗びっしょりになって選んだ100作品は特に輝きを放っていました。それらが一堂に展示された様子は見る者の心をはっきりとつかんでいたと感じます。

展示された作品にはいくつかの共通点がありました。①物語を感じる②リズムカルである③奥行きがある④筆に迷いが無い⑤透明感・空気感がある一などです。

最後に、応募者の皆さん、指導して下さった保護者及び学校の先生、審査にご協力していただいた先生方に改めてお礼を申し上げます。



## 伊勢崎ユネスコ協会

### 本年度の活動報告

会長 設楽 孝吉

伊勢崎ユ協の活動は5月の伊勢崎ユ協の定期総会、会員の承認を受けここから事実上のスタートとなります。伊勢崎ユ協は総会と春の研修会を同時に行ないます。5月23日群馬の歴史再認識Ⅲと銘うって下仁田町方面に向かいました。下仁田町は世界的レベルの地質学的に貴重な資源が数多く存在し日本でも五指に入るほど地質の宝庫であるのです。中で

も下仁田町南部の跡倉クリッペと言われるものは「根なし山」と呼ばれていて山の山頂とふもとで岩石がまったく異なっている、これは上に載っている地層が他の場所で形成され、その後地殻変動で移動してきて侵食され山の上に残ったものであると聞かされ興味をそそがれました。昼食後、下仁田名物の手作りこんにやくを体験しました。



8月には市子ども会育成会と共催の夏休み子ども作品展を本年から市庁舎東館1階にて開催し、育成会の方々には毎年協力を頂きその成果として多くの来場者に見て頂くことが出来ました。11月7日秋の研修、館林市内を巡りました。先ず館林市大新町にあるアサヒ飲料株を見学。ここは皆さんが良く知っている初恋の味で知られる飲み物、カルピスを製造しています。製造工程、これまでのポスターの展示、ビンの包装紙の変遷を見学、次につつじ映像学習館、世界初の4Dシアターを体験、水しぶきと風が突然吹き出したときは皆驚いていた様子でした。昼食は名物の館林うどん。本丸にてナマズおよび海老の天ぷらうどんに舌鼓を打ちました。昼食後、同市栄町にある正田醤油記念館を見学。ここの建物は国登録有形文化財であり醤油を作る色々な道具等が展示してあります。正田醤油は日清製粉の創業家として知られ、上皇后美智子様の実家の本家筋との事です。次の見学地、日清製粉株は正田醤油記念館から歩いて5分位の所にあり創業時から事務所として使用された洋風の建物を利用し日清製粉グループの歴史と伝統を紹介する本館、小麦と小麦粉に関する情報を紹介する新館があります。ここまでは研修の概要を書きましたがこの他に県ユネスコの主催事業のすべてに参加、研修する事が出来ました。お陰さまで各市の取り組み、見聞を広める事が出来た事に感謝するしだいです。

## 高崎ユネスコ協会

### 国際児童画展(47年継続)

事務局長 岡部 幹夫

高崎市内の小・中・特別支援学校の児童生徒から募集した絵画作品を展示する展覧会です。

高崎市小中学校の教師で構成する図工・美術主任会の協力の下、児童生徒より作品を募集し、小中学校の各クラス1点の優秀作品(1,224点)を展示します。展示については、図工・美術主任会の先生方約80名が市内各学校より選定された作品を持ち寄

り、展示作業をおこないます。展示作業終了後、主任会より選出された審査委員の先生方が作品の審査を行っています。優秀作品には賞が授与されます。

令和元年度の児童画展は10月25日(金)～10月30日(水)に、高崎シティギャラリーで開催されました。毎日10:00～18:00まで市民の皆様が無料で自由に鑑賞できます。展示期間の来場者数は約5,000名でした。このような大規模な児童画展は、県内でも高崎ユネスコ協会が最大だと思います。今年で47回を迎えた歴史ある展覧会です。このように長年にわたって行われてきたのも、高崎市内の小中学校との連携と、先生方や教育委員会の皆様のご協力の賜物だと思っています。

展示総数 1,224点

(小学校864点 中・養護学校360点)

入賞総数 111点

(小学校 69点 中・養護学校 42点)

この児童画展の入賞者は翌年2月に文化会館でおこなわれる「児童画・作文合同表彰式」で表彰されます。



## 富岡ユネスコ協会

国際理解バス研修会2019

会長 矢野 英司

国際理解バス研修会を令和元年8月22日に開催いたしました。今回訪れたのはフランス大使館です。

フランス大使館に入館するにあたってのセキュリティチェックは、手荷物検査と厳重な手続きで、張り詰める緊張感に元気な子ども達もなんだか神秘的な面持ちでした。大使館内をご担当頂いた参事官に丁寧に説明、案内を頂きました。富岡製糸場を通じて関係が深まるフランスと富岡市との関係についてお話をして下さいました。富岡市は2015年11月に富岡製糸場の設立指導者でありましたフランス人技師ポール・ブリュナ氏の生誕地のプール・ド・ペアーージュ市と友好都市を締結しています。同市とのつながりは、1872年の富岡製糸場設立までさかのぼりますが、それ以降、交流が始まるまでに100年の時を経ることになります。1972年に、NHKのドキュメンタリー取材班がプール・ド・ペアーージュ市に入ったことがきっかけとなり、富岡製糸場設立100周年を記念して、日本国外務省経由で、当時のプール・ド・

ペアーージュ市から富岡市へ記念メダルが贈呈されました。それから30年余りが過ぎ、2008年より富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録推進活動の一環にて富岡市における日仏交流事業が動き始めたとのことです。

フランスの国旗は、青、白、赤の三色が使われていますが、この三色がいわゆる「トリコロール」と呼ばれています。フランス語で「三色」を意味します。この三色はそれぞれ、青＝自由、白＝平等、赤＝博愛を表している、という話は有名ですが、明確な根拠を示す文献などは見つかっていないため、俗説である可能性が高いのだとか。3色の国旗が発案されたのは、1789年フランス革命が起こった後のことで、革命軍が帽子につけていた帽章の色＝赤と青が、フランス王家を表す白を挟むことによって、パリと王家が和解したことを表現したというのがフランス国旗の有力な由来のようです。

この度フランス大使館にお邪魔し、多くの学びを得ることができました。世界と繋がっている故郷に誇りを持つことができました。これからの活動もユネスコの精神を基本的に考え、この研修会で学び得たことを活かし、国際平和構築のために活動していきたいと思っています。



## 沼田ユネスコ協会

グローバル化を目指す「平和の鐘活動」

～つなげよう・ひろげよう・共に歩もう～

事務局長 大島 俊夫

今年度も「世界の平和」「東日本大震災などの自然災害からの復興」などを願い『平和の鐘を鳴らそうinNUMATA2019』を実施し、市内4か所の寺院で小中学生・高校生・会員・市民など180名程の参加者が心を込めて鐘を撞いた。

今年は令和元年・第10回という節目の年でもあり、国際感覚を高めたいとの思いから、「わたしの平和宣言」を英文でも唱和した。すこし難しい面もあったが、新鮮で楽しい活動になった。特に、高等学校に呼びかけ、各会場とも高校生のリードで、市民・会員・子どもたち全員がいっしょに唱和できたのがよかった。また、沼田高校には仁・義・礼・智・信の五常の鐘があったが戦争で供出された。

平成9年沼高創立100周年記念で鑄造され、昨年

7月に120周年記念で鐘楼が完成し、かつての五常の鐘が復元された。そこで、今回、平和の鐘の趣旨に賛同して、当日は学校長を始め、部活に来ていたサッカー部の生徒を中心に50名ほどが参加して鐘を撞いた。英文の「わたしの平和宣言」も唱和し、ユネスコ活動に貢献した。

参加者の感想でも「平和の鐘参加3度目にして、初めて英文の宣言をしてグローバルな感じで、世界に範囲を広げ、平和の鐘を届けられたような気がした。」「沼田高校の伝統ある五常の鐘が再建され、ユネスコ活動の一環として、たくさんの生徒が参加して、初めて鳴らしてもらったのは感激だった。」などがあった。

今後も教育委員会、各学校、ロータリークラブ等の各種団体や市民と密接な連携を保ちながら、積極的・意図的にユネスコ活動への参加を呼びかけ、地域と一体となって、～つなげ～広げ～共に歩む～ユネスコ活動を継続していきたい。



## 館林ユネスコ協会

### 今年の活動報告

会長 蛭間 享一

今年の館林ユネスコ協会の活動について、紹介します。

当協会では、書きそんじハガキの回収キャンペーンを、ユネスコ活動を紹介する一環として実施しました。市内の幼稚園や保育園、小中学校、公民館などに回収を依頼し、毎年、多くのハガキの回収ができていますので、引き続き積極的に実施していきます。

他にも市内で開催されるイベントに参加しています。今年は、5月に開催された「ふるさとづくり市民フェスティバル」へ参加しました。パネルを展示し、ユネスコの活動を周知しています。市内への発信を通して、多くの方にユネスコの活動を知ってもらい、気軽に活動に参加できるよう広報活動の充実に努めています。

また、7月30日には市内の小学4年生以上から中学生を対象にしたサマースクールを実施しました。昨年と同様、埼玉県立自然の博物館と川の博物館に参加者・会員事務局合わせて46名で訪れました。自然の博物館では、展示内容に関するクイズをした後、虎岩について、実際に川まで降りながら、学芸員に

解説していただきました。川の博物館では、映像で荒川と自然の関わりについて学ぶアドベンチャーシアターや、水の性質について学ぶ荒川わくわくランドを利用しました。学びや遊びを通して子どもたちは、自然について関心を深めているようでした。今回の研修が、参加した子どもたちにとって、自然環境を考えるきっかけになればと思います。



## 安中碓氷ユネスコ協会

### ESD、SDGsの理解に向けて

会長 矢野 薫

元号が令和に変わって間もない6月2日、安中市松井田町坂本の峠の湯及びアプトの道を会場に開催した、群馬県ユネスコ



コ連絡協議会研修視察には県内各地から約260名もの皆様にご参集いただき心より御礼申し上げます。

さて、7月19日安中碓氷ユネスコ協会はSDGs宣言をいたしました。SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで193か国が全会一致で採択した2016年から2030年に向けて世界が同意した国際目標です。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。持続可能な世界を実現するため17のゴール169のターゲットから構成され、地球上の「だれ一人として取り残さない」ことを誓っています。

安中碓氷ユネスコ協会では、SDGsに向けた取組の一つとして、市内の幼稚園・小中高等学校を訪問しSDGsの理解とESD(持続可能な社会の担い手を育む教育)の推進拠点であるユネスコスクールを普及啓発する活動を進めております。

SDGsのゴール13に「気候変動に具体的な対策を」という目標があります。地球上の海水温が上昇し、世界各地で地球温暖化に起因する大規模な自然災害が頻発しています。また、9月5日に埼玉県で開催された、関東ブロックユネスコ活動研究会IN埼玉では「地球規模における環境変化～南極からの警鐘～」のテーマで、地球温暖化による南極大陸

のプランクトンやコケ植物の生態系の現状について報告されました。この中で南極大陸の4割の微生物が死滅し危機的・壊滅的な状況であることに危機感を抱くとともに、地球温暖化防止に向けて喫緊の対策が必要であることを痛感いたしました。

9月23日にニューヨークで開催された国連気候行動サミットで、スウェーデンの高校生環境活動家グレタ・トゥンベリさんは、世界の首脳らが温室効果ガス排出問題に取り組まず、自分たちの世代を裏切ったと非難し、「よくもそんなことを！」と怒りをぶつけたことは記憶に新しいことです。

「SDGs、ESDを理解しよう！」をテーマに9月14日に安中市内全中学校の生徒会役員を対象に開催したユネスコ座談会では、参加したすべての生徒がSDGsに向けた取組みへの意気込みを表明してくれました。

我々のこうした取組が、全世界の人々のSDGsに向けた取組とともに、地球温暖化を食い止め、我々の子孫の将来のために地球が永遠に持続し続けるよう、皆様とともにSDGsの推進及びユネスコスクールの普及・啓発に取り組んでいく所存ですので、今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 藤岡地方ユネスコ協会

「かがやきプロジェクト」

会長 岸 正博

2019年11月23日、みかぼみらい館大ホール1100席が満員、立見席含め、1425人もの観客が集まった。本年、ユネスコ会員になっていただいた藤岡青年会議所が中心となって制作実行委員会を立ち上げ、創られた映画、「コウとチョウゴロウの夏」の上映会である。市内小学校5年の高岩七奈ちゃん扮する少女「コウ」など、「それぞれの世代で生きる子どもたちが将来に漠然とした不安を抱えながら、藤岡の様々な風景や街並み、祭等の地域資源と、藤岡が生んだ偉人たちの生きざまを背景に描かれる青春ストーリー」である。キャストは、オーディションで選ばれた一般の人がほとんど。小学校の屋上から見える風景を前に、主人公「コウ」が「なーんもない」という言葉から物語は始まる。エンディングに主題歌を歌う理子さんの演奏も、映像表現と相俟って音楽表現のもつすばらしさを改めて感じさせられた。

過日、世界遺産「高山社跡」を中心としたまちづく



りの企画を考えるシンポジウム「藤岡かがやきプロジェクト」が開催された。映画の演技指導をした棚橋監督は、合宿やロケ地でのキャスト子供たちの姿から、「この子供たちのために頑張ろうという気になった」と言っている。

その子供たちが大人になる2030年までの国際目標SDGsについて、各地各所でアクションが起こされている。民間ユネスコ協会としての活動はどうあるべきかと自問自答もする。12月8日に第30回の外国人による日本語弁論大会を開催した。SDGs4「質の高い教育をみんなに」、10「人や国の不平等をなくそう」、11「住み続けられるまちづくりを」を位置付け、環境破壊を防ぐ「ベジタリアン」、マイクロプラスチック問題、ヘアドネーションなどに題材をとった外国人による日本語弁論と、市内中学生の英語弁論が行われた。かがやく子供たちのすがたは未来に大きな希望を抱かせるとともに、持続可能な社会づくりは未来への大人の責任でもある。

## 中之条ユネスコ協会

ユネスコ活動の活性化に向けて

会長 嶋村 真也

中之条ユネスコ協会は、昭和54年11月11日に発足した。以来、40年が経過し、区切りの年として本来なら記念式典や記念事業を実施すべきところである。しかし、時代の変化とともに会員の減少と高齢化による組織の縮小や活動の停滞が進み、組織の再生と活動の活性化が本協会の最大の課題となっている。

ちなみに、平成16年度の会員数は120名、平成20年度に100名を切り、今年度は賛助会員まで含めて32名である。この間の事業としては、富岡製糸場などの県内外の文化遺産の視察研修を活動の中心に据え、「ふるさとの文化財絵画展」への援助や「書きそんじハガキ」の回収活動を進めてきた。

そのような中、本協会の状況や課題を踏まえ、ユネスコ憲章の理念に基づく組織の再生・活性化に向けた取り組みを始めたところである。

昨年度から参加者の減少した視察研修に代わり、

地元の文化や歴史の再認識を目的とした講話研修を開始した。今年度は歴史と民俗の博物館ミュージアの企画展「いだてんに勝った男」にち



なで、当町出身の綿貫哲雄文学博士の意外な側面をNHK大河ドラマの主人公金栗四三との関係に絡めてミュージアム長山口通喜氏から講話頂いた。参加人数は8名と少数であったが、事業実施の実績を積むことが出来た。

また、新規事業として鈴木ひで氏の絵手紙展を、博物館ミュゼの協力を頂いて、町産業文化祭のメイン日の11月3日(日)に中之条町のバイテック文化センターで実施した。氏は、当町出身の水彩画家で、素朴で味わいのある温かな描写手法で世相や生活を巧みに表現し、60歳からは7000枚ほどの絵手紙を残しておられる。これを毎年順次公開し、郷土の文化人の啓発と再評価につなげていく計画である。当日は96名の鑑賞者があり、第1回事業として確かな手ごたえを得て、次年度以降の継続事業としての見通しも持つことが出来た。

再生へ向けた再出発としての位置づけの今年度の活動であったが、試金石は今後も続くと考えている。

## 大泉ユネスコ協会

### 今年度の主な活動報告

副会長 槻岡 則夫

平成から令和に元号が変わる今年度、当協会は5月12日に定期総会を開催。心新たに新年度をスタート。

令和元年度の「民間ユネスコ運動の日」記念事業を7月20日に開催。例年は講演会を開催していましたが今年は「大型布紙芝居」の公演を計画し講師である萩原陽子さんを招き開催しました。演目は「多胡碑と羊太夫」「最後の魔法」の2作品です。使用する布紙は1枚1枚が多彩な色、材質を使って丁寧に、また立体的に縫い上げられ、素晴らしい美術作品でもありました。公演終了後は講師の御厚意で参加者に作品をまじかに見せ触れさせ布地特有の温かみを体感できた。

8月20日に第25回国際理解バス研修会を町内の3つの中学校から29名の生徒の参加で実施しました。事前の研修会を8月6日に行い参加する3校の生徒の顔合わせ、事前の班分け及び英語研修など実施した。初めは、3校の交流もぎこちないものでしたが、しだいにスムーズな交流となり、互いに教え合う学習の場となりました。

研修当日は行き帰りのバスの中では、参加生徒が中心となりクイズやゲームなどを実施して楽しく和やかに過ごすことができました。

JICAでは講師の先生から世界の開発途上国の現状や、SDGs「持続可能な開発目標」などを学びました。また、国際理解ワークショップでは『わたしたちの村を発展させよう』をテーマに、10年後を見すえた援助・供与の在り方を現地で暮らしている住民の立場に寄り添いながら、自分の考えを持ち、班で話し合い意見をまとめ、グループ毎に結果を発表した。

昼食時には、開発途上の国々から来ている研修員の皆さんと一緒に、おいしいランチを食しながら、英語でも交流を深めました。

昼食後は、JAXAに移動して見学研修を行いました。スペースドームでは国際宇宙ステーションの

日本の実験棟「きぼう」実物大モデルの中に入った。本物のロケットを見て生徒達は驚き感動したようです。

今回の国際理解バス研修の体験を通して、生徒達は世界の発展途上の国々の現状を知り理解した事、そして、宇宙の世界を身近に触れた驚きと感動を、今後の人生に生かし成長することを願っています。



## 国際ソロプチミスト前橋

### 地域に向けての活動

会長 井田喜代子

ソロプチミストという名称はラテン語のSoror(姉妹)とOptima(最良)からの造語で、女性のために最良(Best for Women)を意味しています。

国際ソロプチミストは国連の経済社会理事会(ECOSOC)の総合協議資格を持つ数少ない女性のNGOです。女性と女兒の地位と生活を向上させるために活動している女性による奉仕団体です。1921年カリフォルニア州オークランドで職業を持つ80名の女性によって結成・開始された活動は、100周年を目前にした現在、世界123の国と地域で約75,000人が参加するまでに広がっています。日本国内には約500クラブ、約11,000人がソロプチミストの諸活動に参加しています。

S I 前橋がクラブ独自の奉仕活動として長年取り組んでいるものの一つが、老人ホームなど福祉施設への慰問・寄付活動です。昨年はクリスマスシーズンに合わせ、前橋市と、渋川市の2か所の施設に伺いました。

前橋市の老人ホームサンヒルズ総社には、クラブ会員らがアップリケを施したひざ掛けを寄付させていただきました。フラスタジオ・ケアオナニ・レイアロハチームの賛助出演をいただき、フラダンスのアトラクションと、あたたかいひざ掛けのプレゼントで、入居者の皆さんと楽しいひと時を過ごしました。

渋川市の老人ホーム春日園には、渋川女子高校JRC部の生徒さん達と一緒に訪問し、クラブ会員と高校生が手作りしたタオル帽子を寄付しました。カラフルなタオル地で作った帽子は、吸湿性があって温かく、防寒用や洗髪後に使用していただけるため、ホームの皆さんに大変好評でした。高校生からお年寄りまで幅広い世代が揃った懇談は和やかで笑い声

の絶えない楽しいものとなりました。

SI前橋は、渋川女子高校JRC部の他にも2高校のSクラブをスポンサーするなど、ボランティア活動を行っている高校生と様々な交流を持っています。若い世代ならではの視点と行動力で取り組む活動を支援すること、地域との橋渡し等も、ボランティア活動を長年続けてきた私たちができる大切な役割ではないかと思えます。高校生へのデートDV防止啓発カード配布も対象校を増やし、継続して行っています。



「写真提供：上毛新聞社」

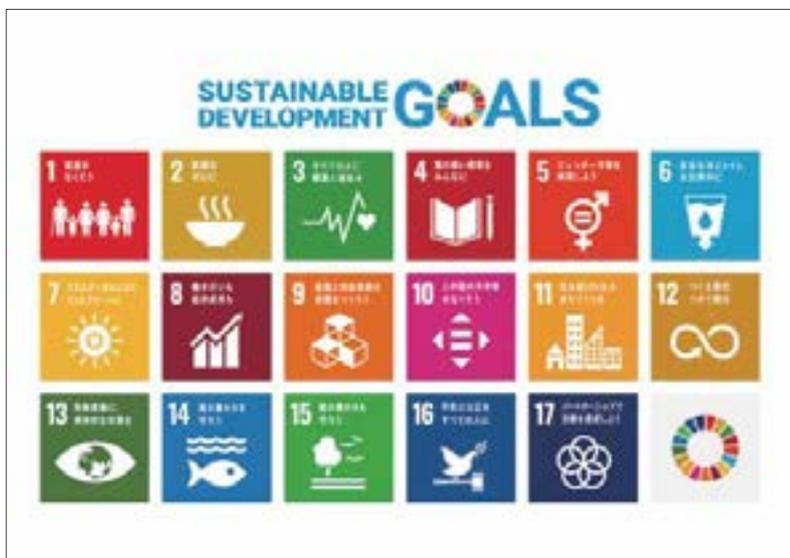
## 祝・社会教育功労者表彰受賞

前事務局長：下田一成氏

令和元年11月20日(水)群馬県生涯学習センターにおきまして、群馬県社会教育研究大会が行われました。この大会は生涯学習社会の構築に向け、県内各地における社会教育活動の状況や研究の成果を交換し、課題解決にむけて研究協議を行うものです。



大会の中で、群馬県ユネスコ連絡協議会の前事務局長でありました下田一成氏(現：沼田ユネスコ協会顧問)が、「令和元年度社会教育功労者群馬県教育委員会表彰」を受けられました。



### 編集・発行

群馬県ユネスコ連絡協議会  
発行責任者 樋口克己  
群馬県前橋市大手町1-1-1  
群馬県教育委員会生涯学習課内  
電話 027-226-4668

## あとがき

今年(令和2年)は、7月に東京オリンピックが開催されます。オリンピックの創設者ピエール・ド・クーベルタン男爵は、『スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する』というオリンピックのあるべき姿(オリンピズム)を提唱しました。オリンピックは「スポーツの祭典」であるだけでなく「平和の祭典」でもあるのです。それは、ユネスコの理念に合致するものだと思います。わたしたちは、お互いを知り、理解しあうことで平和な世界をつくろうというユネスコの基本的な理念に基づきさらに活動を進めていかなければなりません。

各ユ協の皆様には原稿の作成・提出等たいへんお世話になりました。「ユネスコ群馬」の発行を通して、各ユ協間の情報連携や交流が円滑に進められるとともに、県ユ連・各ユ協の活動がさらに活発になることを願っています。

事務局長 岡部 幹夫



# 2020年 新年賀詞ご芳名



明けましておめでとうございます

### 群馬県ユネスコ連絡協議会

会 長 樋口 克己  
 副会長 北川紘一郎  
 副会長 岸 正博  
 副会長 阿久澤和夫  
 事務局長 岡部 幹夫  
 他役員・理事一同

### 安中碓氷ユネスコ協会

会 長 矢野 薫  
 副会長 矢野 篤  
 副会長 猿谷 憲  
 副会長 瀧田 和則  
 副会長 儘田 尚実  
 事務局長 小日向和博

### 伊勢崎ユネスコ協会

会 長 設楽 孝吉  
 副会長 矢内三四卯  
 副会長 横澤 克明  
 副会長 齋藤 文江  
 副会長 坂田 勝美

### 大泉ユネスコ協会

会 長 寺西 弘之  
 副会長 槻岡 則夫  
 副会長 清水 喜義  
 副会長 石井 克己

### 太田ユネスコ協会

会 長 中村 利光  
 副会長 馬場 敏生  
 副会長 竹内 敏彦  
 副会長 青木 京子  
 副会長 岩崎 房子  
 副会長 新井 正雄  
 副会長 金谷 光明  
 副会長 栗田 政子  
 事務局長 若田部茂子

### 桐生ユネスコ協会

会長兼事務局長  
 北川紘一郎  
 副会長 前原 勝良  
 副会長 下山 進平  
 副会長 高柳 光雄  
 副会長 田中 一枝  
 会 計 柿沼 直子

### 高崎ユネスコ協会

会 長 串田 昭光  
 副会長 相原 裕  
 副会長 上田 一美  
 副会長 岩井 聖子  
 副会長 豊泉 君代  
 副会長 渡部 孝男  
 副会長 岡部 幹夫  
 (事務局長)

### 館林ユネスコ協会

会 長 蛭間 享一  
 副会長 奥野 栄通  
 副会長 小林 博子  
 副会長 遠藤 和昭  
 副会長 小林 悟  
 副会長 大野 泰弘

### 富岡ユネスコ協会

会 長 矢野 英司  
 副会長 相川 求  
 副会長 岡野 尋実  
 副会長 齋藤 勝也  
 副会長 神道 良則  
 副会長 黒澤 淳雄  
 事務局長 島崎 佳彦

### 中之条ユネスコ協会

会 長 寫村 真也  
 副会長 剣持 千秋  
 副会長 川越 節子

### 沼田ユネスコ協会

名誉会長 小林 照夫  
 顧 問 下田 一成  
 会 長 石田 宇平  
 副会長 宇敷 和也  
 副会長 矢嶋 照久  
 副会長 森田 経代  
 副会長 戸部 紀義  
 副会長 村澤 玲子  
 事務局長 大島 俊夫

### 藤岡地方ユネスコ協会

会 長 岸 正博  
 副会長 依田 治雄  
 副会長 新井 松江  
 副会長 平居 利朗  
 副会長 西澤 恭順  
 副会長 平林 茂  
 事務局長 岩崎 哲

### 前橋ユネスコ協会

名誉会長 中村 宏  
 会 長 阿久澤和夫  
 副会長 須藤 英雄  
 副会長 福島 輝巳  
 副会長 矢島 俊夫  
 副会長 関根 長之  
 副会長 高島 美幸  
 副会長 宮川 孝子  
 事務局長 樺澤富美雄

### 国際ソロプチミスト前橋

会 長 井田喜代子  
 トレジャー 内田 初枝  
 レコーディングセクレタリー  
 布川 敏恵



### 群馬県ユネスコ連絡協議会 加盟団体

桐生ユネスコ協会 太田ユネスコ協会 前橋ユネスコ協会 伊勢崎ユネスコ協会  
 高崎ユネスコ協会 富岡ユネスコ協会 沼田ユネスコ協会 館林ユネスコ協会  
 安中碓氷ユネスコ協会 藤岡地方ユネスコ協会 中之条ユネスコ協会  
 大泉ユネスコ協会 国際ソロプチミスト前橋